

第5回 北信越体育・保健体育ネットワーク研究会報告



～トキめき新潟ラウンド～

全国学体連福島大会が終わった余韻を引きついで、第5回トキめきラウンドが始まりました。次期学習指導要領に向けての審議が大詰めになり、今までの体育授業と何が変わるのか、今後求められていく体育授業とはどのようなものなのか、自分の授業を振り返りながら、体育授業のマイナーチェンジを図るヒントを得ようと、小中高32人の参加者が集いました。県外からの参加や体育を専門としていない先生の参加もありました。

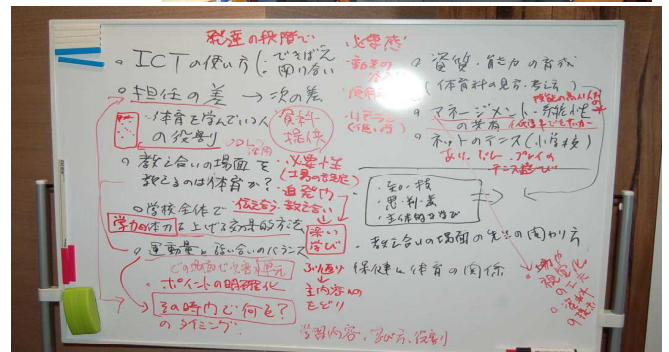
- 1 期日 平成28年11月12日(土)
14:00～16:30
- 2 場所 パーティールーム「プラスサード (plus 3rd)」
- 3 内容報告



今回はまず、参加者を小グループに分け、普段の授業の課題や新学習指導要領へ向けた疑問などを出していききました。

- ① ICTの効果的な使い方
- ② 担任の力量の差への対応
- ③ 教え合いの際の留意点
- ④ 学校全体の体力向上の効果的方法
- ⑤ 運動量と話し合いのバランス
- ⑥ 資質・能力の育成と体育の見方・考え方
- ⑦ 授業マネジメントと系統性の共有
- ⑧ 小学校のネット型でテニスは「あり」か

このように主に8つのテーマが出され、それに対して、参加者による解決策の提案の後、佐藤豊先生、高橋修一先生から、具体的な解決案や最新情報などを紹介してもらいました。



<テーマ①> ICTについては、子どもが欲しているときに使うこと、学び合いの段階では教師の関わりが大切であることをまず確認し、体づくりアプリや大学でのVTRを使った授業の紹介があった。

<テーマ②> 担任の力量の差を埋めるには、体育を研究している者が資料提供などのマネジメントをすることや、全校で統一した学び方を設定するといった方法が紹介された。

<テーマ③> 教え合いでは、子ども達に必要性を持たせて、ただの伝え合いや教え合いに終わらず、いかに深い学びにまで行かせるかが大切であり、そのためには、追質問や振り返りが有効という提案があった。

<テーマ④> 学校全体で学力向上を目指すことが肝要で、その中で体力向上を図るとよい。

<テーマ⑤> 運動量については、単元全体の中で本時は何を学ぶ時間を明確にすれば、45分の中で多いとか少ないとかという議論はなくなる。

<テーマ⑥> 今回の改訂では、各教科毎にその特質にあった見方・考え方を設定し、それを働かせて(道具として)資質・能力を育成する。アクティブラーニングが一人歩きをしている感があるが、言語活動だけであったり、何かの活動をしていればこれでよいというケースもあるようだ。あくまでも、深い学び、対話的な学び、主体的な学びという3つの視点から授業を改善するという事であることを、再度確認してもらいたい。新学習指導要領は、新しくなった所だけを見るのではなく、これまでの趣旨の上に立つものであることを忘れてはいけない。

<テーマ⑦> 年間カリキュラムの中で授業の位置を明確に示し、場の工夫や視覚化といった資料を提供することで、系統性をもったマネジメントができる。

<テーマ⑧> 易しいゲームの教材としてのテニスとして「あり」である。



次期学習指導要領の理解にとどまらず、自分の授業をどのようにマイナーチェンジしていくかについて考えることができました。また、校種や地域を超えてベテランから若手まで、体育の専門でない方の貴重な意見もあり、互いに刺激し合った意義深い会となりました。(文責：長谷川智)

